

自由南アフリカの声

Voice of Free South Africa

2012年10月

No. 60



～1冊の本が人生を変える～

発行 / アジア・アフリカと共に歩む会

Together with Africa and Asia Association(TAAA)

2012年9月までの報告と予定

- 6月～10月 南アにて図書・学校菜園・サッカー支援活動など
- 7月7日 TAAA 一時帰国活動報告会（東京にて）
- 8月 日本から南アのプロジェクト訪問
- 8月 コンテナ図書室を8校に購入・配備
- 6月～10月 インターナショナルスクールなどから英語の本引取りと再梱包作業
- 9月 TAAA 南ア代表一時帰国。南アへ戻る
- 10月 英語の本 15671冊、サッカーボール200個、算数セット85個出荷
- 1月 TAAA 創立20周年記念報告会・レセプション(さいたま市にて)

目次	■ 図書・菜園・サッカー(平林薫)	2
	■ 1996年に送った中古移動図書館車が現役でテレビに.....	4
	■ 南アの学校の図書室を訪ねて(森直之)	5
	■ 南アの子どもたちにサッカーボールとトレーニングを(堀田浩平/森直之)	6
	■ 8月TAAAのプロジェクトサイト訪問記(久我祐子)	8
	■ (予告)TAAA 創立20周年記念報告会・レセプション	10
	■ 主な活動	11
	■ 寄付をして下さった方々.....	12



自作のジャンプ板で遊ぶ少年

南アフリカ共和国 クワズールーナタール州ウグ郡の三つの地域の学校での活動 ～図書・菜園・サッカー～

TAAA 南ア事務所代表
平林 薫

現地近況

広大な土地を持つ南アでは車が主な移動手段であることから各地で交通事故が多発しており、私たちが活動を行っているクワズールーナタール州の遠隔地でも子供たちが交通事故の犠牲になっています。地域が広いので軽トラックを使って生徒の送迎をしている学校があり、送迎の途中に事故に遭ったり、スポーツや芸術交流で生徒を乗せて他校に行く途中のバスが事故を起こしたりしています。事故の理由としては道路のコンディションが悪いこと、車両の整備不良、ドライバーのマナーや経験不足などがあげられます。私たちも活動で地域の学校を巡回訪問しており、ミニバスタクシーを利用して生徒の農場訪問も行っているため、今後も安全には十分留意をしながら活動を続けていきたいと思っています。

菜園活動

JICA 草の根技術協力事業“学校を拠点とした地域農業促進プロジェクト”は、残すところあと3カ月となりました。各校の担当教師や菜園クラブの生徒たちは、有機農法の基礎的な知識と技術を習得し、自分たちの手で作物を育てることができるようになりました。菜園活動はすでに担当する生徒の学校生活の一部となっています。朝一で水やりと雑草取り、収穫をしてキッチンに運ぶなどの仕事をして、休み時間に次の移植用の土地を耕し、放課後にも世話をしてから帰宅するという毎日です。そのような生徒たちは、種や苗を持ち帰って家庭菜園を始めており、このような生徒の活動は、地域内での菜園活動の広がりを促進することにつながっています。地域ではかつて畑作りは主に女性（特におばあさん）の仕事と考えられていました。しかし、対象校では男子生徒の積極的な参加と活躍が見られ、外で身体を動かすことを楽しんで活動を行っている生徒、黙々と真剣に活動をする“将来のファーマー候補”の生徒もいます。彼らが地域の農業をリードしてくれる日が来ることを楽しみにしています。



トゥルベケ小・シボングジェケ高校 エナレニ農場訪問



菜園クラブメンバーのエナレニ農場訪問は、高校生と小学校高学年で活動を活発に行っている生徒を対象に行っていますが、有機農法を実践している農場で様々な家畜の飼育、たくさんの種類の作物・果樹の栽培やそれらを利用した調理法などを学ぶことは、生徒たちの知識や興味の上につながっています。6月にはドウドウ地域3校、9月にはヒバディーン地域の2校が農場訪問をしました。5月末には各校の担当教師と菜園クラブメンバーの生徒が、州都ピーターマリッツバーグで開催された農業博覧会(Royal Agricultural Show)を訪問しました。初めての農業博覧会の訪問に生徒たちは興奮気味で、現地では何を見ても目を丸くしていました。地域内では見ることのできない農業関連の様々な取り組みやビジネスを学ぶ大変貴重な経験となりました。

ワイルダー小学校の菜園クラブの生徒たち



ムシカジコミュニティメンバー 年金支給会場前で収穫の販売

ドゥドゥドゥ地域のバボンギーレ小（シニアプライマリー・5-7年生）では、担当教師が病欠欠勤している間、育った苗を移植する作業を生徒たちの力でしっかりと行い、野菜は順調に成長しています。生徒は自分たちの畑として責任を持って世話をしており、教師は“学校を出ても仕事がなくぶらぶらしている若者が多い中、私の生徒たちはきっと将来畑仕事で生活して行かれるでしょう”と話しています。同校は今回が初めての菜園活動で、事業開始時には敷地は全くの更地でしたが、現在は農業専門家が“インスピレーションな畑”と評価しており、ここでも菜園活動の中心メンバーは男子生徒です。

6月中旬と8月下旬の2回、ロゼッテンヴィル小の保護者、地域住民を対象とした研修会を開催しました。参加者の中にはすでに野菜作りを行っている住民もいましたが、有機農法の講義と学校の畑での実習は大変役立ったと、校長を通して保護者代表からメッセージをもらいました。学校を通していくつかの新しいコミュニティグループとのつながりも出来始めており、それぞれどのような形でサポートができるか話し合いを持っています。身近にあるものを利用した有機農法で、安全で栄養があり、おいしい野菜を自分たちの手で作ることの効果・有効性をまず地域の人たちが認識し、小さな家庭菜園からでもとにかく始めることが将来の地域における農業の定着や農業従事者の増加につながるのだということを感じています。

ヒバディーン地域・ムシカジグループは着実に活動を進めており、ジャガイモやキャベツ、バターナッツ等、収穫の販売を行っています。地域では月末から月初めの数日間、地域内にあるコミュニティホールなどを会場として社会保障（老齢年金等）の支給があります。当日は会場の外に露店で日用品や食品が並べられ、グループも毎回收穫物を販売しています。また、地域内に点々と存在する売店にもキャベツなどを預けて売ってもらい、後で集金する方法で取引をしています。ただ、地域内といっても範囲が広く、歩いて行かれる距離ではないため、収穫物の運搬のための車両の確保に苦心しており、時々プロジェクト車両で収穫物の配達をサポートも行っています。

図書支援活動

ボランティア貯金の助成金で行っている“基礎教育支援のための学校図書室の配備と巡回指導”プロジェクトは半期が過ぎ、活動は順調に進んでいます。8月には図書室開設用のスペースのない8校にコンテナ図書室を購入、配備しました。今回はコンテナ内に予め本棚を設置してから配送したので、各校では早速本の整理が行われています。移動図書館車の巡回訪問は、設備が不十分で教材も不足している学校において生徒が図書室の利用の仕方を学ぶこと、あらゆる分野の本にアクセスできるという点で大変喜ばれ、生徒の本への興味を促進しています。しかし、巡回訪問日数や一回に借りられる生徒数には制限があり、最終的には学校に図書室を設置し、



インプレレロ小にコンテナ図書室到着



ドラえもんに熱中するゴベラ小生徒

全校生徒が利用できるようにすることを目標としています。

各校の司書教師に対する研修会を3地域で5月と9月に開催しました。多くの司書教師は校長から任命されたものの、これまでに図書活動に関する研修を受けたことがなく、十分な知識を持っていません。研修会では図書館の役割と利用法、図書委員会設立の重要性、本の整理の仕方など基礎的知識を指導しました。実際に本を使ってできるだけわかりやすく指導するよう心がけています。司書教師の図書活動への熱意と努力により、各校では活発に活動が行われており、生徒の本への興味と読書力の向上が見られます。次期は移動図書館車で対象校への巡回訪問を継続し、各校に必要な本と本棚の購入をして学校図書室設置への協力を続けて行く予定です。

菜園活動と図書活動のつながり

各校の生徒たちは、移動図書館車から“Gardening”の本や、動植物の成長など自然科学の本をよく借りて行きます。本を読む力をつけながら、菜園活動の知識も得られるのでとても効果的だと思います。また、ムタルメ小学校で菜園活動を熱心に行っている7年生の男子生徒は、移動図書館車から“How safe is our food supply?”という本を借りて行きました。菜園活動担当教師は、生徒に畑での実地だけでなく、栄養や食べ物の流通、生産過程での安全性などについても指導していることから、生徒の興味が深まっていることが伺えます。今後も生徒が広く知識を得られるよう、移動図書館車に様々なジャンルの本を搭載して貸出しを続けて行きたいと思っています。

サッカープロジェクト

TAAA は THAN 球プロジェクトと共同でサッカープロジェクトを行い、地域の学校にサッカーボールを届けています。以前は学校にサッカークラブはあるものの、ボールが足りないためメンバーが十分にボールに触れる機会がありませんでした。しかし現在では、学校訪問をすると休み時間や放課後に必ず生徒たちが練習する姿が見られるようになりました。8月には THAN 球プロジェクトのメンバーが地域の学校を訪問し、イベントを開催してサッカー指導をしてくださいました。イベントで生徒たちは正式な練習を初めて体験し、また日本人のコーチから学ぶという大変貴重な経験をしました。これから地域の学校でサッカークラブの活動がますます活発になっていくことを期待しています。

1996年に送った中古移動図書館車が現役でテレビに

平林薫のメールより

2012年9月9日

先ほど E-TV の“Against of all odds”という番組の再放送（通常は金曜日の夜）を見ていたところ、リポーターが見たことのあるバスを運転している姿がいきなり映し出されました。もともとベノニの MEI が DAVEYTON 黒人居住区の学校を巡回訪問していた移動図書館車で、現在は“Ekufundeni Project”として白人女性のグループが活動しています。通称“Reading Gogo’s Project”-Gogoはおばあちゃんの意味で、リーダーのビビアンさんも70歳、メンバーはほとんど白人のおばあちゃんたちです。Daveyton 小学校のデューベ校長先生が登場し、プロジェクトが大変成果を上げているとの話をしていました。

メンバーたちは先生方と活動内容を話し合い、カリキュラムに沿った指導をしており、校長は、“ネイティブに英語を教わることは効果的だし、また彼女たちに触れることで、生徒が人種や肌の色を超えて<人間はみな同じ>ということ学んでいる”と話していました。ベントレーさんも Founder としてちょっとだけ登場しました。何かずいぶんよくよくなって“とっても優しそうなおじさん”の印象でした。

移動図書館車の巡回訪問はとても効果のある活動ですが、彼女たちはそれだけでなく、生徒への読み聞かせや、一緒に歌ったり踊ったりして英語を教えているのがとてもいいと思いました。また、生徒たちが自分のおばあちゃんのように抱きついたりしている姿がとても印象的でした。MEI から彼女たちのグループに引き継ぐときに一度メンバーにお会いしたのですが、機会があったらぜひまた訪問していろいろと学びたいと思っています。

(日本で10数年使用された車ですので、車の年齢は30歳を越します。TAAAが初めて南アに送った車です。)

南アの学校の図書室を訪ねる

TAAA 森直之

今回、私たちは3つのキーワード「サッカー」「図書室」「菜園」を軸にして南ア視察訪問を回りました。私は、「図書室」と「サッカー」を担当しました。私が、この2つのキーワードで1番意識したのは「去年との違い」です。今日は、「図書室」についてまとめます。

今回1番の仕事は、コンテナ図書室の贈与式でした。

贈与式は3校の学校で行いました。式典では、プンガシェ教育センターのドラミニ所長、学校の校長先生や図書指導員、TAAA 代表の久我さん、プロジェクトマネージャーの平林さんが、子供たちに「本を読む素晴らしさ」を伝えました。その中で私が印象に残っている言葉は、久我さんがおしゃっていた「図書館プロジェクトは、私たちでのプロジェクトではなく、あなたたちのプロジェクト」です。これには、子供の顔も変わりこれから頑張る図書の仕事に従事しようという決意が、表情に出ていました。

その次に、本棚を製造しているバーナードさんの工房に行き、今後は本棚のキットを作って頂き、子供たちに組み立ててもらい形を取ってもらいようにお話しました。バーナードさんは自立支援に熱心な方で、この話に凄く興味をもっていました。また、「地域の若者には、自分の手で何かを作り出すことの大切さ、そしてそれが生活の糧となることを教えたい。若者は若者同士で学び、仕事をし、活動するのがいいからね」というお話を伺いました。

その後、TAAA のオフィスに戻り去年届いた段ボール348個の整理を行いました。1つの段ボールには、本が30冊以上入っております。その本を、種類毎に分けて、パソコンに本の情報を打ち込む一連の作業は1つの段ボールで40分以上かかります。その作業を、平林さん・マイケルの2人だけでやっているということ。

私も、一連の作業を行ったものの段ボールに入っている本の種類がバラバラで仕分けるのが大変でした。今後、日本で行う梱包作業の仕組みを変えたほうがいいなと思いました。

また、最終日には移動図書館の運転も行いました。舗装されていない道路を運転するのは、すごく難しくて集中力があるなと思いました。改めて、マイケルのドライブテクニクの凄さに触れることが出来ました。そして、素人ながら思ったことは、ブレーキが凄く弱かったのではということです。今後、修理が必要だなと思いました。

話を戻して、去年の違いの事について話をすると、1番変わったことは、子供たちが英語の本に触れる機会が多くなったことです。私たちが、活動している地域は TV やラジオが繋がっていない地域が多く、そのような地域で、移動図書館車は絶大な人気があり子供から先生まで笑顔になって本を借りていきます。それは、凄く嬉しいことです。しかし、図書室のある学校はほとんどなく、あっても本棚には本の数が少なく、レベルに合っていない本が並んでいるというのが現実であり、今後の課題であると感じました。

また、先ほどと同じことを言いますが、式典で教育センター長のドラミニ氏や校長先生達が「読書の大切さ」を伝えたのが、子供たちにとって大きな刺激になったのではないのでしょうか。

南アフリカにとって、英語は公用語(他に地域毎に10の言語)であります。日本と違って、大人になって英語をしゃべれないと置いていかれて就職をするのに困難になります。子供たちの時から、英語に触れることが大切だと改めて感じました。

インプレメロ小にて 移動図書館車イテンバ号

本棚の寄贈 (左が筆者)



南アの子供たちにサッカーボールとトレーニングを！

堀田浩平の報告

サポーナ！！（こんにちわ！）

8月1日～9日の間南アフリカに行き、サッカー教室をしてきました！私は、日本でサッカーのコーチをやっていますが、海外の子供たちを教えるのは初めてのことです。この話しを森さんから受けたとき、こんなチャンスはないと思い受けました。

南アフリカのイメージは、ジャングルでどこから動物が出てくるか分からない、自然豊かなところ。と思っていたら・・・

山はサトウキビ畑で、ジャングルどころか森などなく（森さんは居たが）、

あれ？沖縄？なんて思うくらいのサトウキビ畑！
アパルトヘイト時代の面影だとか。

サッカー教室はというと、南アの子はとっても元気！

ボールを蹴ることをとても楽しんでいました。

指導は、日本語→英語→ズールー語でやりました。通訳通してやると時間のロスが多い。こればかりはしょうがないが、子供たちは集中して聞いていました。

南アはトレーニングの習慣がないそうで、ちゃんとしたトレーニングは初めて。それでも、普通にこなす姿を見て南アサッカーの将来の可能性が見えました。

グラウンドはでこぼこ。ある学校は傾斜があるグラウンド。今の日本の学校はとことん恵まれている。普通に通っていた学校は、あらためて恵まれていたのだと感じました。

しかし、そんなグラウンドでサッカーをしている子供たちはとても技術がありました。その技術は、グラウンドのおかげで身についたもの。これにトレーニングメニューをこなせば！

可能性に満ち溢れた子供たち。

この子供たちに私たちが少しでも力になればという思いで、今後も THAN 球プロジェクトを活動していきますので、今後ご支援よろしくお祈いします。
（堀田浩平：多摩大学フットサル部部长）



左から森、堀田、久我

森直之の報告

8月1日から10日間の南ア訪問中のサッカーイベントには、小学校2校・中学校2校・高校2校を招きサッカー練習や試合を行いました。イベントの練習メニューを作成することにあたって1番重要にしたのは、サッカーの練習を行ったことのない子供たちにサッカーの面白さと向上心を持ってもらう事でした。

去年、南アに行ったときに先生から聞いたお話が今でも印象に残っていることは「試合は行っているが練習は行っていない」という事でした。その背景には、指導者が練習メニューを知らない、サッカーボールが少ないので出来ない



ということでした。サッカー先進国では、当たり前のこと
が行われていることがここでは行われないことに驚きま
した。

話をイベント当日に戻します。

最初に行った練習メニューは、2人1組になり1人はキッ
カー・1人はスロワーになり、インサイドキック・アウトサイ
ドキック・モモトラップ・胸トラップ・ヘディング・ジャンプヘ
ッドの練習でした。

初めてやる子供ばかりだったので、成功例と失敗例を何
度も繰り返しながら子供に見せて上手くなるように努め
ました。みんな、初めてみる練習メニューばかりなので食
い入るように見っていました。

その次に、学校対抗のリレーを行いました。

リレーは4種類で、走り・ドリブル・手を使ってボールを上
に運ぶ・下に運ぶを行いました。

みんな、学校対抗ということもあり1位を目指して頑張
っていました。

1位になったチームの盛り上がり方は、日本とは比べられ
ないほどすごいものがありました。たぶん、サッカー以外で
の勝負は初めてだったからではないかと思いました。

ここで、休憩を挟み2つのブロック(高校生以上・中学生
以下)に分けて PK 練習と練習試合を行いました。ここから
は、MVP の対象になるので子供たちの表情はより一層引き
締まっていました。

また、PK と練習試合の間にはグラウンドのゴミ拾いを行
いました。

まず、みんなを集めて「なぜ、ゴミを拾う事が大事な
のかわかる人？」という質問をするとみんなが顔見回し
ている。一人の子が、真剣な目で「リサイクルするため」と
言った。確かにそれも一理ある。その後、誰も手を上げ
ないので答えを言おうとした瞬間1人が手を挙げた「グ
ラウンドを綺麗にして、怪我を防止すること」。私が言
おうとした言葉を言ってくれた嬉しかった。みんなも、
納得をしてゴミ拾いを行ってくれた。南アでは、ゴミ箱
がないのでゴミ箱に捨てる習慣がほとんどないという
ことにはがっかりしました。

その後、学校対抗の練習試合を行いました。この試合
では、MVP も関わっていることもありみんな一生懸命頑
張っていました。どの子に MVP にするか凄く迷いま
した。

試合後には、勝利チームに新品サッカーボールの進
呈と各チーム1人に MVP の記念メダルの進呈を行いま
した。メダル貰った子もそうでない子も、みんな終始笑
顔でサッカーを行ってくれたことが何よりも成功であり
、より一層サッカーを楽しんでくれたのではないかと思
いました。

今回、指導を行って思ったことは、練習時間の少な
さです。この問題の最大の要因は、指導者の指導力だと
感じます。今回会った指導者全員が練習指導を行った
ことがないという事実です。指導者の全員は、練習＝
試合という考えがほとんどだったのが残念でした。し
かし、マイケル(現地スタッフ)の話によると「都心のチ
ームは練習をちゃんと行ってから試合を行う」と言っ
ていた。これは、地域格差の現れだと思う。今、支援
を行っている地域は元々サッカーボール無かった地
域であるからサッカーボールを使えるだけでも進歩
したと思います。しかし、このままサッカーボールを
蹴っているだけでは地域格差を埋められないと思
います。この格差を埋めるために、サッカーの練習
マニュアル映像を作りました。この映像を見て、サ
ッカーの技術・人間性が向上してほしいなと思っ
ています。

南アの子供たちには、まだまだ伸び代がたくさん
あると思います。今後、その伸び代がどこまで伸び
ていくかが楽しみです。

移動図書館に行く子もいるしサッカーをする子も
いる



8月TAAAのプロジェクトサイト訪問記

久我 祐子

コンテナ図書室贈与式

最初に訪れた学校は、ヒバディーン地域にあるシボングジュケ高校です。TAAAは、移動図書館車による本の貸し出しだけでなく、図書環境を設備面で改善していますが、図書室を作るスペースのないシボングジュケ高校には、私たちの訪問の少し前にコンテナ図書室を設置しました。当初の計画にはなかったのですが、急遽、ブンガシェ教育センターのドラミニ所長の計らいで、日本からのTAAAメンバーの訪問に合わせて、コンテナ図書室の贈与式が行われるようになりました。

高校に着くと、生徒たちが一生懸命、コンテナ図書室を掃除したり本を並べたりしていました。学校に図書室ができたことが嬉しくてしょうがないようで、皆ワクワクしています。式典の部屋に入ると、図書メンバーの生徒たちと先生が席についていました。ドラミニ所長、州教育省の役人、校長先生、SGB(PTA)メンバー代表、プロジェクトマネージャーの平林さん、私は前に座り簡単なスピーチをすることになりました。



コンテナ図書室の前で (左が筆者)

司会進行役のドラミニ氏は始終「本を読むことの大切さ」をユーモアも交えて熱っぽく語りました。話の合間に氏が、「You Must」と声を張り上げると、皆は「Read!」と続きます。伝道師と信者のように、これを何回も繰り返しました。

私は「TAAAは、コンテナ図書室を用意させていただきました。今後、本もできるだけ多く届けるようにがんばります。教育センターのドラミニ氏もがんばります。でも、場所と本だけでは図書室は成り立ちません。図書室は、本を借りる人、司書、管理する人がいて、初めて成り立ちます。図書室を作っていくのはあなたたち生徒で、これはあなたたちのプロジェクトです」と生徒たちの方をみて簡単なスピーチをさせていただきました。式典は美しいコーラスとお祈りで終了しました。式典の後は、コンテナ図書室に戻りテープカットをして、みんなで記念写真をとりました。この時の言葉も「チーズ」ではなく、「Read」でした。

学校で育つ“菜園男子”たち

シボングジュケ高校の菜園を訪問すると、数人の男子生徒たちが私たちの急な訪問に気を取られることなく、馴れた手つきで、黙々と畑仕事に励んでいました。その姿は、ファーマーそのものです。

「菜園活動は盛んですよ。特に男子が一生懸命なんです」と校長先生。「特に男子が一生懸命」なことは、学年を問わずにいえることのように、対象校を訪問する度に、菜園担当教師たちから聞かされました。

伝統的には、「菜園は女性の、特におばあちゃんの仕事で、男がやるのはかっこよくない」という偏見が根強いこの地域において、男子生徒たちが菜園活動に主体的に取り組むようになったことは、学校という新しい価値観を育む教育現場で菜園活動を導入した成果なのだと改めて思いました。

校長先生は、地域の発展に熱心なアイディアマンで、「ここは農業に適した土壌をもつ、可能性を秘めた地域です。将来的にはエコツーリズムなども栄えるといいと思っています」など、この土地に残る若者たちへの仕事作りの可能性を熱っぽく語ってくれました。

奥地の学校にも図書室ができました！

ドゥドゥドゥ地域の学校も2校訪問しました。最初に訪れた学校は、昨年も視察訪問したハイレベルな菜園のあるムチェレニ小学校です。ドゥドゥドゥ地域の中でも、たまに伝統的な民家が見えるぐらいの人影もない奥地に、オアシスのように存在する素敵なお学校です。通学圏は相当広範囲なのでしょう。在校生徒数571名の大きな小学校です。

私たちが到着すると、校長先生が満面の笑顔で迎えてくれました。南アフリカの遠隔地域では、校長先生の異動がほとんどなく、同じ校長先生が長年一つの学校を務めます。よって、学校の雰囲気、管理能力や教育力は、校長先生の力量に大きく左右され、同じ地域内でも、学校間格差が生じてしまうようです。ムチャレニ小学校は、かなり立ち後れた困窮地域にありますが、校長先生の力量により、しっかりとした運営で評判がよく、TAAA が関わっている菜園や図書活動も大変活発に行われています。

ここでもコンテナ図書室の贈与式が行われました。私は、「ズールー文化が大切にする“Joy”“Share”“Respect”の3つの美德を図書活動に生かして、素敵な図書室を作って下さい」と伝えました。校長先生のスピーチは短く、代わりに歌で喜びや感謝の気持ちを表してくださいました。校長先生が歌いはじめると、生徒たちも立ち上がって、楽しそうに体を揺らしながらの合唱になりました。小学校の生徒たちにとって、長い「校長先生のお話」よりも、自分たちと一緒に歌ったり踊ったりしてくれた方がどれほど気持ちをシェアできるでしょう。「日常生活に歌や踊りのある文化は素敵だな」と改めて思いました。私たちも歌に参加して喜びを共にしました。

しかし、生徒数 571 人に対しコンテナ図書室はスペースが不十分です。近い将来、この学校で、大きめの本格的な図書室が設置され、充実した学校図書活動が行われるようになってほしいと願いました。そして、いずれは、卒業生や保護者を始め地域住民も利用できるコミュニティーに開かれた学校図書室に発展していくとすばらしいと思いました。

やさしい英語の本が必要

次に訪れた学校は、バボンギーレ小学校です。ここは「シニア・プライマリ」といって、日本の小5～中1までの学校で、生徒数 110 名に教師 4 名という小規模な学校です。くねくねした未舗道を通ってたどり着くと、女の子たちが思いっきり、でこぼこの校庭を走り回っていました。この地域の児童は男の子も女の子も本当に活発です。

この小学校には図書室があり、私たちは移動図書館車で運んできた新しい本棚を図書室に運び込みました。地元の木工職人であるバーナードさんが丹精こめて作ってくれた本棚です。図書室は教室ぐらいの大きさで、本棚にはある程度本が並べられていました。小さな学校でのこのスペースと冊数は、この地域ではとても恵まれていると思いました。しかし、本を手にとって調べてみると、古い本が多く、子供たちが喜びそうな魅力的な本はほとんどありませんでした。また、かなりの読解力を必要とする本が多く、とても生徒たちのレベルに合っているとは思えません。

今回の視察で心配になってきたことは、ここの地域の生徒たちの英語力です。ウグ郡のような遠隔地域は、本だけでなくテレビやラジオに触れる機会が少ないため、都会や校外の子供たちと比べると育つ段階で英語に触れる機会が圧倒的に少ないのです。

バボンギーレのようなシニア・プライマリでも、図書室にはジュニア用の薄い英語の本をたくさんおいて、まずは英語の本を読むことに自信をつけさせることが大切なのでは、と思いました。現行の移動図書館車プロジェクトで生徒たちに貸し出しをしている様な、読みやすく薄い本を図書室にも沢山並べてあげたいと思いました。南アの場合、基礎的な英語力は、学力の基盤になるので、それが揺らいでいるとしっかりとした学力が育たず、学年が上がるにつれ大きなハンディキャップとなります。

図書室には、ズールー語の本も何冊かありました。南ア社会では、母語と英語ができることが当たり前のように要求されますが、教育リソースが絶望的に不足している遠隔地域においては、2つの言語の読み書きをマスターすることは当たり前どころか、あまりにも大きなハードルです。彼らが置かれた環境と、南ア社会、そしてグローバル社会が彼らに要求する能力には、絶望的ともいえる大きなギャップがあります。

学習者にとって本は食べ物

視察訪問最後の日は豪雨の中、ブンガシェ地域まで車を走らせました。ベカメバ高校でもコンテナ図書室贈与式が行われました。ドラミニ所長は、どの贈与式でも一貫して本を読む大切さを訴えています。その学年に合わせて話す内容を変えています。

今回は高校高学年の出席者が多かったので「正直にしておく。本は難しくて、読むことは大変な時もある。でも、You must read!」そしてネルソン・マンデラ氏に触れて「長いこと牢獄から解放されたとき、マンデラ氏は世界の情勢を全て知っていた。読書をしていたからだ。本から必要な全ての知識を得ていたのだ。」

ベカメバ高校は生徒数442人の大きな学校です。しかし、今まで図書室はありませんでした。今回贈与したささやかなコンテナ図書室が、彼らにとって初めての学校図書室になります。

南アが新しい民主主義国家に生まれ変わった当初、南アのある教育NGOスタッフがいった言葉を思い出しました。「学習する者にとって、本は食べ物のようなもの。食べ物がなく育つことを要求されるはどれほど過酷なことか」と。しかし20年たった今も、南アの遠隔地域の高校では、相変わらず生徒たちは「食べ物」がない状態で、成長することを求められているのです。

すっかり定着した移動図書館車活動

ベカメバ高校を後にして、ヒバディーン地域に戻り、インプレメロ小学校を訪問しました。ちょうど昼食時だったので、学校菜園でとれたヘルシーなランチで暖かく私たち一行を迎えてくれました。菜園プロジェクトで定期的に行っている研修では、菜園技術や知識だけでなく、収穫物の応用として健康によい伝統的な野菜の調理方法や栄養知識も学びます。その知識を生かされた野菜本来の素朴な味わいのランチでした。

食事の後、移動図書館車からの本の貸し出しをしました。

昨年の8月に視察訪問をした時は、図書活動が導入されたばかりで、学校訪問の度に移動図書館車による第一回目の本の貸し出しを行いました。生まれて初めて図書を借りる子供たちの興奮した顔に出会いました。それから一年を経て、本の貸し出しはすっかり定着し、移動図書館車イテンバ号は人気者として生徒たちの生活の一部になっている印象を受けました。

われ先にと本を返却しようと窓に本を差し出す子供たちに、マイケルは「順番に」とたしなみます。貸し出しは、全員の返却が終わってからになります。早く借りたい」とイテンバ号の前でワクワクしながら待っている子供たち。イテンバ号には、平易な英語で書かれた薄い本や、つい手に取りたくくなるような魅力的な絵本がたくさん置かれています。返却が終わるやいなや、生徒たちはバスの中に入り込み、一番の宝物を探すように、目をきょろきょろさせながら本を選んでいきます。

図書室のないインプレメロ小にも、コンテナ図書室を寄贈しました。私たちのこれからの課題の一つは、学校の図書室も親しみやすく魅力的な本でいっぱいにして、イテンバ号と同じぐらい人気者にすることだと思いました。

今回の訪問で、学校に本と畑が着実に定着していることが確認できました。これからも、育ち盛りの彼らが、体の栄養と頭の栄養がしっかり取れるような環境作りのお手伝いしていきたいと思えます。



(予告) TAAA創立20周年記念報告会・レセプションについて

1992年に設立されたTAAAは、おかげさまで2012年に20周年を迎えました。これを記念し、2013年1月12日(土)に、20周年記念報告会とレセプションを開催する予定です。詳細は未定ですが、この機会にぜひご来場いただき、今までの軌跡を振り返るとともに、今後の南アへの支援について語り合うことができれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

日時 2013年1月12日(土) 午後2時~5時(予定)

場所 与野本町コミュニティセンター 第3・4集会室

〒338-0003 埼玉県さいたま市中央区本町東3-5-43

TEL: 048-853-7232

JR埼京線 与野本町駅西口下車 徒歩3

費用 500円+飲食代実費

内容 ・講演 平林薫(TAAA南ア事務所代表)

・パネルディスカッション

・レセプション(スナック&ジュースタイム)

担当: 丸岡 晶

(20周年記念誌に掲載の感想・思い出などを募集中です。300字~400字で11月中旬までにお送りください。)

◆ 主な活動 (2012年5月16日～2012年9月15日)

下線は南アにおける活動

5/16 ヒバディーン地域図書研修会開催 平林薫
5/17～18・21～22 プンガシエ地域学校訪問 平林
 5/18 会計会議 高野千恵美 野田千香子
 5/19 会報59号編集・校正 野田 西村裕子
 5/20～ 決算書など 高野
 5/22 JICAで会議 久我祐子 野田
5/23 ドウドウドウ地域図書研修会開催 平林
5/24 プンガシエ地域図書研修会開催 平林
5/25 ドウドウドウ地域学校訪問 平林
 5/25 埼玉県助成金申請準備 久我 平林薫 野田
5/28 州教育省トゥートン・ムタルメ学区帳Mr. Zamisa
とミーティング 平林
5/29 ヒバディーン地域学校訪問 平林
5/30 農業展覧会 (Royal Show) 訪問 平林
5/31～6/1 ジョハネス・プレトリア出張 平林
 6/4 作業場へ本の搬入 北爪健一
6/4～6 プンガシエ地域学校訪問 平林
 6/6 会報郵送準備 高野
6/7～8 ヒバディーン地域学校訪問 平林
 6/8 埼玉県国際交流協会訪問申請書提出 久我
 6/9 アメリカンインターナショナルスクールへ本引き取り 北爪 浅見克則 榊裕美
 6/9 HP更新 渡恵美
 6/10 作業と会報郵送準備 上林潤子 野田 森直之 山口直美 浦和学院高校より瀧岡仁美 松尾莉沙
6/11～12 ヒバディーン地域学校訪問 平林
6/13 ヒバディーン・ムシカジ農業グループ訪問 平林
6/14 ロゼッテンヴィル小保護者グループ菜園研修会開催 平林
 6/14 さいたま市NGO活動推進室へ相談 久我 野田
6/15 ヒバディーン学校訪問及びムタルメ農業グループ訪問 平林
6/18 ヒバディーン地域学校訪問 平林
6/19 エナレニ農場訪問 (ドウドウドウ地域学校)
6/22 日本へ一時帰国 平林
 6/22 臨時梱包作業 久我
 6/26 JICA 会議 事業申請の関心表明提出 久我
 6/26 会報59号PDF化 鯨井幸一
 6月下旬 ミーティング数回 久我 平林
 7/1～5 報告会用資料作成 鯨井
 7/3 JICA 事業申請書提出 久我
 7/7 JICA 地球ひろばにてTAAA 報告会
 7/8 梱包作業 北爪 野田 高野 浦和学院高校より木澤澄子 菅原彩瑛
 7/9 外務省NGO連携課へ相談 平林 久我
 7/12 ミーティング 平林 久我
 7/17 ひろしま祈りの石へ第1四半期報告 久我

7/17 南アフリカへ戻る 平林
 7/19 青葉インターナショナルスクールへ本の引き取り 北爪
 7/19 JICA 申請審査に関わる面接 久我
 7/19 本の梱包作業 高野
7/19～20 プレトリアJICA等へ出張 平林
 7/24 JICA 第1四半期報告書提出 久我
7/24 JICAスタッフと会議 (ヒバディーンTAAA オフィス) 平林
7/26 ダーバンにて図書館車ライセンス更新 平林
7/27 ヒバディーン地域学校訪問 平林
 7/30 JICAにて勉強会 久我
 7/30 JICA 農業支援交流会 久我 野田
7/30～31, 8/1 ヒバディーン地域学校訪問 平林
8/1～9 南ア視察訪問 久我 森 堀田浩平
8/2～8 各地域学校訪問とサッカーイベント 平林
 久我 森 堀田
 8/12 梱包作業と南ア帰国報告会 森 北爪 野田 鯨井 西村 高野 中央大学杉並高校より大塚圭先生 小倉信吾 村山翔 岡本王鳳 寺沼直輝
8/13 プンガシエ地域学校訪問 平林
8/14 教師対象農業研修会開催 (プンガシエ) 平林
 8/14 「ぐりとぐら」ズールー語ラベル印刷 西村
8/15 ヒバディーン地域学校訪問 平林
8/16 プンガシエ地域学校訪問 平林
8/17 ヒバディーン学校訪問 平林
8/20 プンガシエ地域学校訪問 平林
8/21 教師対象農業研修会開催 (ヒバディーン)
8/22 ヒバディーン地域学校訪問 平林
8/23 教師対象農業研修会開催 (ドウドウドウ)
8/24 ヒバディーン学校訪問 平林
8/27 ドウドウドウ地域学校訪問 平林
8/28～31 ヒバディーン、プンガシエ、ドウドウドウ学校訪問 平林
 8月中 数回HP更新 久我
9/3 ヒバディーン地域学校訪問 平林
 8/9～9/6 「ぐりとぐら」ラベル貼り 高野
 9/5 商船三井訪問 久我 北爪
9/4, 9/11 ドウドウドウとプンガシエにて図書研修会開催 平林
9/5～12 プンガシエ、ヒバディーン、ドウドウドウ学校訪問 平林
 9/9 梱包作業と8月南ア視察報告会 北爪 野田 鯨井 網代貴司 久我 榊
 9/10 住所ラベル更新 西村
 9/10 出荷荷物リスト表作成 久我
9/13 エナレニ農場訪問 平林